

# 経済情報

## 米銀貸出態度調査（2010 年 4 月）の結果 ～貸出基準厳格化の動きはほぼ終息～

### 【要 旨】

- ◇ 連邦準備制度理事会（FRB）の融資担当者調査（3 ヶ月ごとに年 4 回実施、今回は 4 月調査）の結果が発表された。
- ◇ 商工業貸出では、大・中堅企業向けの貸出態度が前回に続き緩和超となった。小企業向けも厳格化の動きは止まったが、緩和した銀行はほとんどなかった。資金需要は減少超幅が一段と縮小し、回復方向にあることが示された。
- ◇ 商業不動産貸出も、商工業貸出に比べると状況は厳しいが、貸出態度厳格化の動きに歯止めがかかりつつある。資金需要も、商業不動産市況に底入れの兆しが出る中、持ち直しの動きがみられる。
- ◇ 個人向け貸出でも、クレジット・カードを除くと厳格化の動きに歯止めがかかり、ホームエクイティやクレジット・カード以外の消費者ローンでは緩和超に転じた。資金需要は、プライム向け住宅ローンで減少超幅が拡大した。
- ◇ 米銀の貸出態度厳格化の動きはほぼ終息しつつある。しかし、中小企業向けでは依然厳しく、設備投資や新規雇用に対する意欲を委縮させている。これが、当面、景気回復ペースを緩やかなものに止めると予想される。

### 1. 企業向け貸出：大・中堅企業向けでは緩和の動き

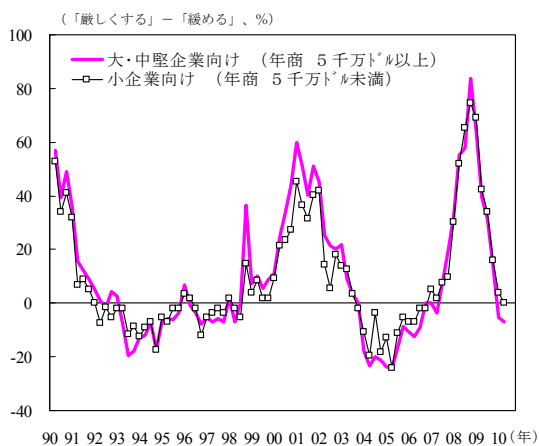
#### ① 商工業貸出

商工業貸出では、貸出態度の厳格化の動きがほぼ終息したことが窺われる。大・中堅企業向けでは、緩和に転じる銀行が増え（前回 3 行→今回 6 行）、3 カ月前と比べて貸出態度を「厳しくした」銀行の割合から「緩和した」銀行の割合を引いたネットの比率は前回の▲5.5%から▲7.1%に拡大した（第 1 図）。

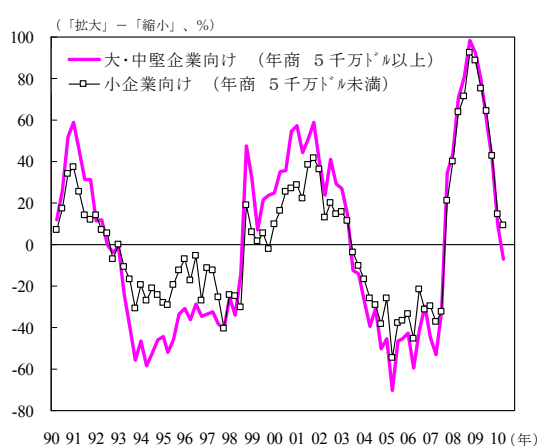
一方、小企業向けでは、同比率が3.7%から0.0%に低下したが、緩和した銀行は僅か1行に止まった（前回0行）。貸出条件も、スプレッドを拡大した銀行のネットの比率が大・中堅企業向けで▲7.1%と縮小超に転じたのに対し、小企業向けでは9.3%と依然、拡大超となっている（第2図）。銀行の規模別では、貸出基準を緩和した銀行はすべて総資産200億ドル以上の大銀行で、中小銀行はゼロ。貸出条件を厳しくした銀行も中小銀行の方が多くなっている。

資金需要では、「資金需要が増加した」との回答比率から「減少した」を引いたネットの比率が、大・中堅企業向けで前回調査の▲25.5%から▲7.1%へ、小企業向けでは▲29.6%から▲9.3%へとマイナス幅の縮小が続いており、景気回復をうけて資金需要が回復方向にあることが示された（第3図）。

第1図：米銀商工業貸出の貸出基準

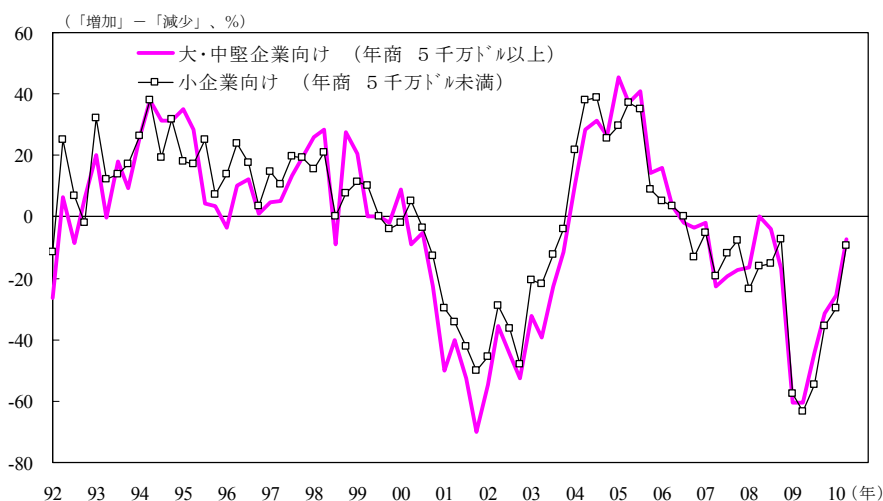


第2図：米銀商工業貸出のスプレッド



(資料) FRB, Senior Loan Officer Opinion Survey on Bank Lending Practices より三菱東京UFJ銀行経済調査室作成

第3図：米銀商工業貸出の資金需要



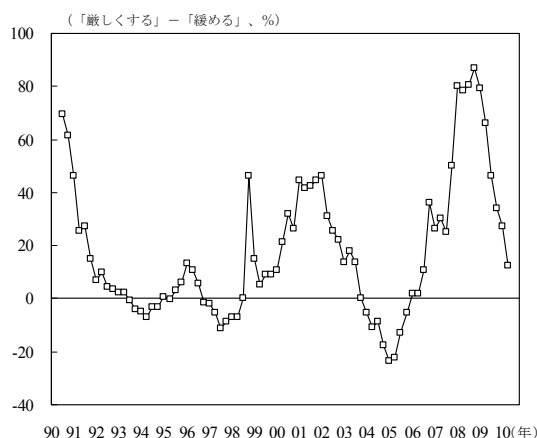
(資料) FRB, Senior Loan Officer Opinion Survey on Bank Lending Practices より三菱東京UFJ銀行経済調査室作成

## ② 商業用不動産貸出

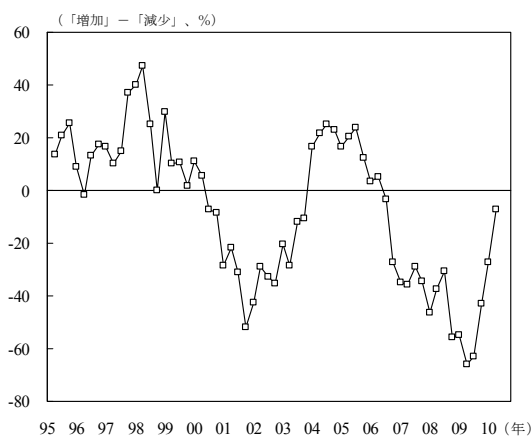
商業用不動産貸出でも、商工業貸出に比べると出遅れ感は否めないものの、貸出態度厳格化の動きに歯止めがかかりつつある。貸出態度を厳しくした銀行のネットの比率は前回調査の27.3%から12.5%へと一段と低下した(第4図)。なお、今回行われた特別調査では、半数近い銀行が6カ月前に比べて貸出期間延長などの返済条件緩和措置を増やしたと回答している。

資金需要も、「増加した」との回答比率から「減少した」を引いたネットの比率が前回の▲27.3%から▲7.1%へと顕著に縮小(第5図)。商業不動産市況に底入れの兆しが出る中、資金需要にも持ち直しの動きがみられる。

第4図：商業用不動産貸出の貸出基準



第5図：商業用不動産貸出の資金需要



(資料) FRB, Senior Loan Officer Opinion Survey on Bank Lending Practices より三菱東京UFJ銀行経済調査室作成

## 2. 個人向け貸出：プライム向け住宅ローンの資金需要が減退

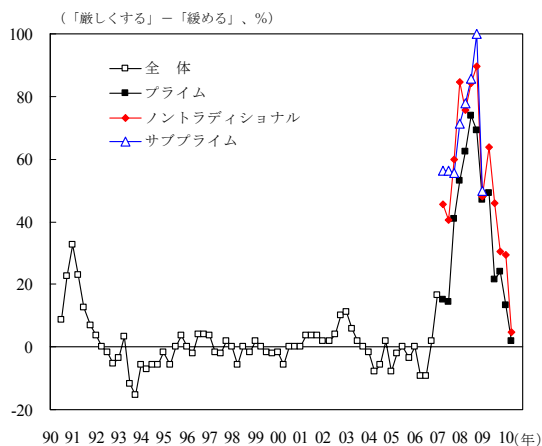
### ① 住宅ローン

住宅ローンの貸出基準も総じて厳格化の動きに歯止めがかかっている。3カ月前に比べて貸出態度を「厳しくした」銀行のネットの比率は、信用力の相対的に高いプライム向けで前回の13.2%から1.9%へ低下。非伝統的な住宅ローン向け<sup>(注)</sup>では29.4%から4.8%へと大きく低下した(第6図)。また、ホームエクイティ・ローンでは7.4%から▲5.4%へと2008年1月の調査開始以来、初めて緩和超に転じている。

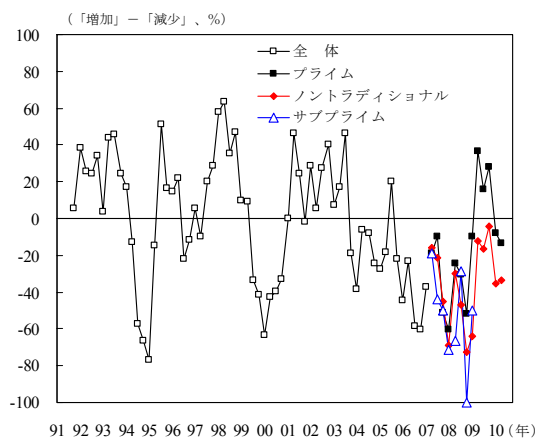
(注) 数年間、元本返済を先送りする「インタレスト・オンリー・ローン」など

一方、資金需要は、住宅販売の不振を反映して、「資金需要が増加した」との回答比率から「減少した」を引いたネットの比率(プライム向け)が前回の▲7.7%から▲13.2%へと減少超幅が拡大した(第7図)。

第6図：住宅ローンの貸出基準



第7図：住宅ローンの資金需要



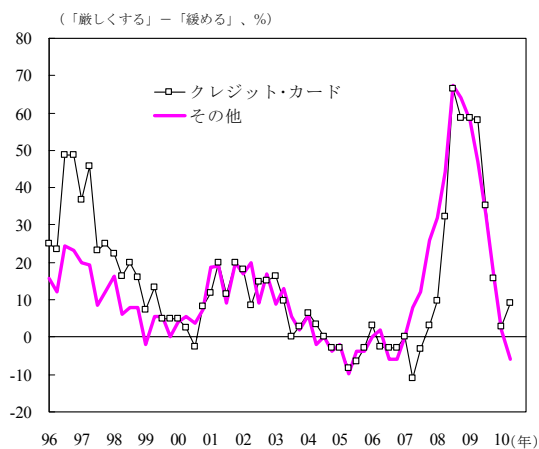
(資料) FRB, Senior Loan Officer Opinion Survey on Bank Lending Practices より三菱東京UFJ銀行経済調査室作成

## ② 消費者ローン

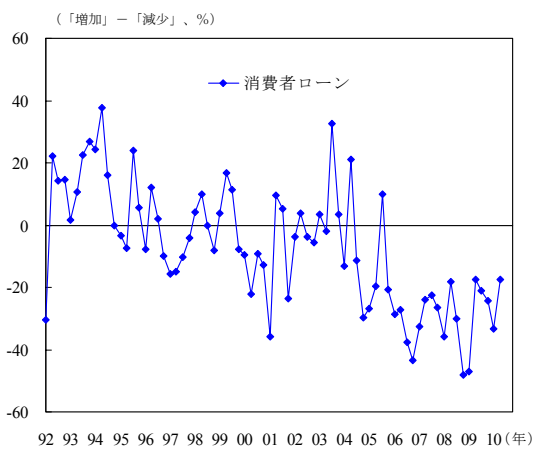
消費者ローンではクレジット・カードとそれ以外で明暗が分かれた。貸出基準を厳しくした銀行の比率は、クレジット・カードが2.8%→9.1%と拡大したのに対して、クレジット・カード以外は1.9%→▲6.0%と緩和超に転じた(第8図)。また、貸出金利などの貸出条件もクレジット・カード向けで厳格化の動きが残る一方、クレジット・カード以外では緩和の動きが目立った。

資金需要は、「増加した」との回答比率から「減少した」を引いたネットの比率が前回調査の▲33.3%から▲17.3%へと1年振りにマイナス幅が縮小した。しかし、資金需要は総じて弱い状態が続いている(第9図)。

第8図：消費者向けローンの貸出基準



第9図：消費者向けローンの資金需要



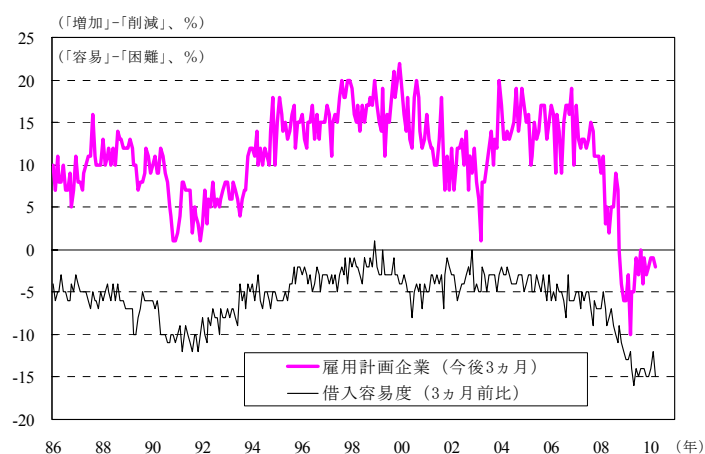
(資料) FRB, Senior Loan Officer Opinion Survey on Bank Lending Practices より三菱東京UFJ銀行経済調査室作成

### 3. 中小企業の資金調達環境は厳しいまま

以上のように、景気回復や金融市場の一段の安定をうけ、米銀が貸出態度を厳格化する動きはほぼ終息しつつある。しかし、中小企業向けでは貸出態度を緩和する動きはほとんど見られない。今回の調査では、中小企業向けクレジット・カード(事業資金専用)の貸出態度・条件に関する特別調査が実施されたが、約7割の銀行が現在の貸出態度・条件は長期平均よりも厳しいと回答、また、3～4割の銀行が過去6カ月で貸出態度・条件をさらに厳格化したと回答している。本調査では、総じて規模の大きい銀行が対象となっているが、調査対象外の小規模な地銀などでは貸出態度はさらに厳しいとみられる。これらを主な調達先とする中小企業では資金調達環境は厳しいままであることが窺える。

中小企業の資金調達環境の厳しさは、借り手に対する調査にも表れている。全米独立企業連盟(NFIB)によれば、中小企業の資金調達環境は歴史的な水準に悪化しており、これが設備投資や新規雇用に対する意欲を委縮させているとみられる(第10図)。足元の景気は個人消費などを中心に予想以上に底堅く推移しているが、当面は、中小企業での雇用の回復の遅れなどが景気回復ペースを緩やかなものに止めると予想される。

第10図：中小企業の資金調達環境と雇用計画



(資料) 全米独立企業連盟 (NFIB) より三菱東京UFJ銀行経済調査室作成

(H22.5.6 山中 崇 takashi\_2\_yamanaka@mufg.jp)

当資料は情報提供のみを目的として作成されたものであり、金融商品の売買や投資など何らかの行動を勧誘するものではありません。ご利用に関しては、すべてお客様御自身でご判断下さいますよう、宜しく申し上げます。当資料は信頼できるとされる情報に基づいて作成されていますが、当室はその正確性を保証するものではありません。内容は予告なしに変更することがありますので、予めご了承下さい。また、当資料は著作物であり、著作権法により保護されています。全文または一部を転載する場合は出所を明記してください。

発行：株式会社 三菱東京UFJ銀行 経済調査室

〒100-8388 東京都千代田区丸の内2-7-1